デカシッス **オータル通信** 第15号

使わなくなったコンテンツを "非表示" にしてあげる裏技

授業にてアカンサスポータルを使った確認テストやアンケートを実施していると、いつの間にかコン テンツが増え、必要なコンテンツを探すことを煩わしく思うようになります(左図)。熱心な先生の思い

↓↑ テスト/アンケート

- » 第1回確認テスト(4月10日)
- » 第2回確認テスト(4月17日)
- » 第3回確認テスト(4月24日)
- » 第4回確認テスト(5月1日)
- » 第5回確認テスト(5月8日)
- » 第6回確認テスト(5月15日)
- » 第7回確認テスト(5月22日)» 中間レポート(6月12日まで)
- » 第8回確認テスト(5月29日)

とは別に、学生も同じストレスを感じていることでしょう。もしかすると嫌悪感すら抱いているかも知れません。

そこで、本稿では「使わなくなったコンテンツを非表示に<u>して</u> あげる方法」を紹介します。「<u>してあげる</u>」というのは、次ペー ジに示すとおり、学生モードで非表示になるが、教員モードでは 非表示ではないという意味です。「なんだ」と思われるかも知れ ませんが、教員側のメリットも少なくとも3つは存在します。

まず、学生の回答操作のミスが減るでしょう。ポータルを使ってレポート提出を求めたとき、間違えた提出場所から送ってくれる学生が数名います。【(補足)アカンサスポータルでは、レポートを提出するポストを設置する機能があります。1課題に1つのポストを設置するのですが、課題Aに対するレポートを課題Bのポストから提出してくれた時は困ります】そこで、役目を終えたコンテンツを学生側で非表示としてあげることで、回答や提出自体の"もめ事"が減るかも知れません。

次に、この方法を使うと、<u>対象のコンテンツ名の文字が「青」から「薄い黒」に変わります</u>。これにより、「学生が利用可能なコンテンツ」と「利用できないコンテンツ」の**区別が容易**になります。もし、「学生が利用可能な状態」のコンテンツを探すときは青文字を探せばよいことになります。

3つ目は、**学生に見せないコンテンツを作れる**ということです。作成途中の教材を「非表示」にしておき、完成したら「表示」に切替えるといった使い方ができます。要するに、何回でもコンテンツ作成作業を中断できると言うわけです。

次ページに操作方法を示しました。もし、説明や操作手順が不明な点がございましたら、右記まで連絡をお願いします。(要望がありましたら、なぜ裏技なのかについても説明させていただきます)

【 文責:末本哲雄 】

制作:FD・ICT 教育推進室(FD/SD・ICT 教育支援部門)

末本 哲雄 ・ 竹本 寛秋

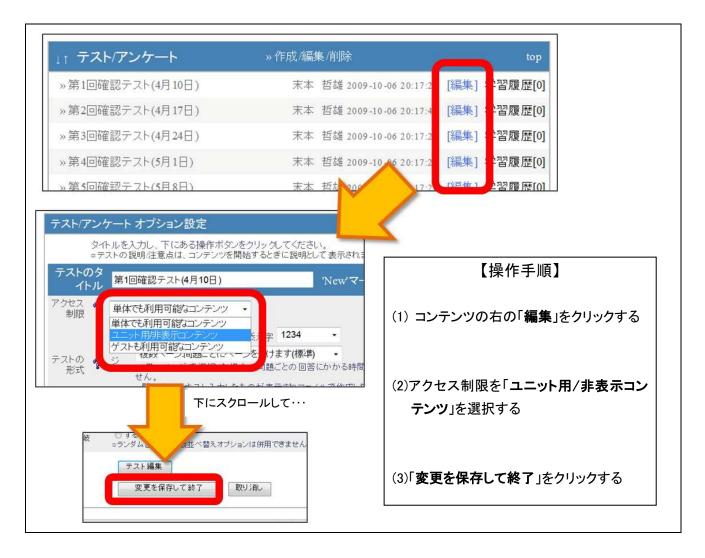
電話: 内線 角間(81)-5804

メール: e-support@el.kanazawa-u.ac.jp

(ID・バスワードの発行依頼、操作方法もこちらまで)

URL: http://www.el.kanazawa-u.ac.jp/home/index.html

【操作手順】



操作の結果、下図に示すように、表示が変わる。(第1回~第7回確認テストに注目)

先生モードで表示



学生モードで表示



- (↑) 学生が見ると表示されない
- (←)教員が見ると「非表示コンテンツ」は 薄い黒文字で表示される (見づらくて申し訳ない)

(使用例) 筆者はこの方法で「TA/教員だけの会議室」を作り、グループワークをファシリテートする TA の報告や相談、 配慮を要する受講生についての意見交換をしている。